代表取締役社長

小川 秀樹

「全員経営」
ひとりひとりが自分の仕事を大切に、
その結果 全員で経営体質を変革していこう
という想いを込めました。

Top Message

グループ全体として
グローバルなビジョンを描き、
業界No.1企業へ。

「みな西川ゴムの人間」という考えとともに

当社の経営理念は、「己の立てる所を深く掘れ　そこに必ず泉あらん」という哲学者ニーチェの言葉です。若い社員がスペシャリストを目指す上で有用な箴言（しんげん）ですが、それと同時につらいことがあっても初志貫徹で一つひとつ課題をこなしていくことの尊さを説いたものと理解しております。

今の時代、大切にしなければならないことはたくさんあります。とりわけ私は「社員は仲間」という思いが強く、人と人のつながりが持つ力を信じています。

その根幹には海外での経験があります。私はタイと中国に長く赴任し、さらにインドネシアやメキシコの拠点立ち上げに携わるなど、西川ゴム人生のうち半分以上を海外で過ごしてきました。その中で、国籍は違っても「みな西川ゴムの人間」という発想が生まれました。「私たちは同じ仲間なんだ」と考えることで、文化や価値観の異なる多様な人々とつながり、信頼して仕事を任せることができます。

中国の拠点では現地の出身かつ女性のリーダーが誕生し、素晴らしい成果を上げている事例もあります。自分が一番、自国が一番ではなく、「よいものは取り入れる」という柔軟な姿勢が大切であることを海外生活から学びました。

コロナ禍を乗り越え組織として心機一転

近年の会社の状況としては、売上は好調であるものの経営のバランスにおいて苦慮もあり、そこにコロナ禍が重なって、さまざまな闘いがありました。私は海外担当ということで世界の状況を見ていましたが、最もコロナ禍の影響を受けたのは、真面目で防衛本能の強い国民性を持った日本ではないかと思います。

そのような中で2023年4月に社長に就任し、まずは日本の経営の挽回というところに主軸を置いて、組織を大きく変えました。心機一転みなが頑張ってくれたおかげで、業績回復は目覚ましいものがあり、社員には大変感謝しています。

もちろん会社は単に儲かればよいというものではありません。環境を守り、人に投資し、ステークホルダーのみなさまにしっかり還元する。そうした当たり前のことをキャッチアップし、本当にバランスのとれた会社に生まれ変わる、当社は今まさにその途上にあります。

日本のことができるなら世界のこともできる

あまりにも世の中の流れが速いため、何事かを成すにも短期間ではできませんが、そこは計画性をもって進めていく必要があります。大切なのは、「変えるべきところ」と「変えてはいけないところ」を見極めること、本当のサステナビリティとは何かを学び研究し続けることです。新しい技術ができても、それは限定的なものではないか、あるいはそのエリアに特化したものではないか、というような見方をきちんとしていくこと、判断していくことが重要だと考えています。

また日本で仕事をしていても「この問題は海外の子会社でも起こっていないだろうか」とか「日本で開発したこの機械は海外でも使えないだろうか」といった発想と視点を、社員一人ひとりが持つことも大切です。社員には、日本のことができるなら世界のこともできるという可能性を秘めていることに、気づいてほしいと願っています。何か特別なことをする必要はありません、今ここにあるものを伝えて共有化するだけでよいのです。

グローバル企業としての位置づけを明確化

当社では2030年に向けて新たな経営計画を策定、発表しました。これには「2030年 グローバル中長期経営計画」と、“グローバル”という言葉が入っています。当社は広島のサプライヤー企業としては、グローバル化が進んでいると思います。そうした位置づけを明確にすることで、グループ全体としての意志を表明しました。

目指す姿としては、環境への対応向上、ステークホルダーのみなさまおよび地域社会への貢献など、これまでのビジョンを逸脱することなく踏襲しています。ただし地域社会とは広島だけに限らず、グループ拠点がある世界それぞれの地域も視野に入れています。

こうして2030年に向けて段階的に細かく達成目標を掲げ、社会的価値の創造と経済的価値の創造の両輪で、業界グローバルトップ企業を目指します。

リサイクル技術開発などESG推進に関する取り組み

社内の各分科会活動に代表される、ESG推進に関する取り組みにも触れさせていただきます。E（環境）は製造業として大変重要なテーマですから、例えば製造過程で発生する熱の再利用や遮熱対策を行うことで省エネと作業環境の向上を同時実現するなど、積極的に推し進めています。また新技術として、難しいとされてきたゴムのマテリアルリサイクル技術についても、量産化に向けて開発活動を継続しています。

S（社会）については広島県が発行する環境債「グリーンボンド」を購入し、命名権を得た県保有の自然公園エリアの一画を“nishikawa みどりの森”と名付け、新入社員研修にも森のメンテナンスをカリキュラムとして取り入れています。またコロナ禍や時代の流れの中で社員間のコミュニケーションが希薄になりつつある昨今、森林保全活動を社員とその家族が親睦を深める場としても活用しています。

G（ガバナンス）に関しては、このたびのメキシコ子会社の誤謬（ごびゅう）による棚卸資産の過大計上を戒めとし、より一層強化していかなければならないと肝に銘じています。当社は基本的に真面目な会社であると私は信じていますが、真面目であることとガバナンスが十全に機能していることは別問題です。今回の件も、よく見ているつもりでもまだまだ仕組みに不十分な点があったと反省しております。再発防止に全力で取り組むこと、そして内部統制に尽力することは、企業を維持管理する上での最重点課題と捉えております。

事業ポートフォリオを広げクリーンな経営を

私は社長になってから、「全員経営」というスローガンを掲げました。これは一人ひとりが経営者的な発想を持つというニュアンスとは少し異なり、それぞれが自分の場所をしっかり守り、しっかり成長してほしいという意味合いで言っています。

社員個々の成長は、ひいては会社全体の成長につながります。社員が自分を磨くために身につけたい資格があれば、会社は費用サポートも含めて応援します。それは業務に関することだけでなく、例えばバックオフィスのDXに役立つIT系の知識・スキルの習得などでも構いません。

そして社外に出てたくさんの人と会い、社内文化とは違った刺激を受けることで成長スピードも速くなるでしょう。だからどんどん外に飛び出して、自己実現もしてほしい。同じ働くなら、面白い仕事ができたという充実感を社員にはしっかり持ってほしいと思います。そうすれば、「西川ゴムの社員はキラキラ輝いている」と多くのみなさまに思っていただけるはずです。

私自身、疲れていても現場に行くと元気をもらえることがあります。逆に、声をかけると「社長から元気をもらえた」と言ってくれる社員もいます。そういう意味では常にハードルは低く、社員との距離が近い社長でありたいと思っています。

最後にステークホルダーのみなさまに申し上げたいのは、当社は決して派手な会社ではありませんが、高い技術力を強みにシールメーカーとして研鑽（けんさん）を重ね、近年はシールを構成するゴムの素材メーカーとしても存在感を放ち、今後はさらに自動車用シール以外にも事業ポートフォリオを広げていきたい、と堅実に前進しているということです。その中でグループ全体、社員全員で、クリーンな経営を心がけてまいります。